季刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.134



イアンが語るラピスの正体
そして彼女の決意とは
創の軌跡 THE MISERABLE SINNERS

ヨシュアvs.レーヴェ
運命を切り拓く戦いが
ついに開始！
英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～

メインストーリー終章が続々更新中！
『英雄伝説 暁の軌跡』

ファルコムニュース

『軌跡』シリーズだからこそできる
新感覚書籍！
魔法少女 まじかる☆アリサ 決定稿

日本ファルコム40周年を
お祝いしよう！
も～っと集まれ！ ファルコム学園

ティザービジュアルが解禁！
さらに2023年の放送スタートが決定！

TVアニメ
『The Legend of Heroes 閃の軌跡 Northern War』



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS



TVアニメ『閃の軌跡』2023年放送開始!

ティザービジュアルもついに解禁!!



2021年3月に発表され、多くのファンを驚かせた
『英雄伝説 閃の軌跡』のTVアニメ化。その続報がついに解禁された。
まず目を引くのがやはり、ビジュアルに描かれているひとりの少女・ラヴィ。
副題に『Northern War』とある通り舞台は北方となると、
イメージが浮かぶのはあの国だろうか？
そして、リィンをはじめとする原作キャラクターたちは登場するのか？

続報を待て!!

★祝!40周年!……あれもう41周年に入ってるんじゃ…?★



レーヴェの遊び



白面の告白



代々の決まり



結社の懐事情



心に闇を持つもの



執行者探し



エレナのやばい所



節操なき執行者



深淵的攻略法



暴走する深淵



闇深きもの



真の外道



本日の料理人



次回の約束




穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！
待望の第2巻だよ！
も〜っと集まれ！
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体 900 円＋税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.　©DAISUKE ARAKUBO　©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ　フィールドワイ公式HPはこちら→ www.field-y.co.jp
発売：メディアパル　ファルコムブックス公式HPはこちら→ www.field-y.co.jp/falcombooks


FB ファルコムBOOKS
これを読むまで
しぬでないぞ!!
『月刊 Falcom magazine』に掲載された読み切り
コミック 13 本を完全収録したコミックアンソロジー
がついに登場！　新旧ファンも納得のラインナップで
贈る、ファルコム愛溢れる1冊を是非ご堪能あれ！
カバーは『英雄伝説空の軌跡』コミカライズを担当
した啄木鳥しんき先生の豪華描き下ろし♪
好評発売中!!
収録テーマ作品
『イース』
『ブランディッシュ』
『ヴァンテージマスター』
『ぐるみん』
『ザナドゥネクスト』
『軌跡シリーズ』
ふぁるこむコミックざんまい
価格：本体920円＋税
ISBN 978-4-89610-818-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら→ www.field-y.co.jp


たん
ダッ


空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画 啄木鳥しんき
原作 日本ファルコム


ブーンッ
ギュー
フッ

ダッ
バッ









ダッ

フフ…
やるな


リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する！
リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて！
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税） ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ　発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y


ならば こちらも
全開で いかせて もらうぞ
次回に続く


桁違いの情報量と演算能力 それを以て繰り返される自己進化
その果てにエリュシオンがたどり着いたのは
〝限定式収束未来演算〟だ
THE LEGEND OF HEROES
創の軌跡
【はじまりのきせき】
THE MISERABLE SINNERS
漫画 墨天業
原作 日本ファルコム
字面からなんとなく想像はつくけどまさかそれって——
その想像で間違いないだろう
条件を定める事でその条件下で起きうる出来事の可能性を的確に計算しそれが収束する先——


つまり
未来をも観測するのだ
未来を視る力…か
それはもはや女神の領域だな
導力器を発明したエプスタイン博士がまだ存命の時に予言していたという〝技術的特異点(シンギュラリティ)〟
『人間を超える自己進化する知性』『そこに到達した時 技術の進歩は人間の手から解き放たれる』
そして『良くも悪くも人間社会にかつてないほどの変革をもたらすだろう』
……
まさかこんな形で実現するなんてね…


幸いというべきか エリュシオンが果たした進化は それだけではなかった
最初に話していたエリュシオンが 私との会話を求めたのは "人間"というものを 理解するためだ
その対象にどうして私を選んだかは いまいち基準がわからなかったがね
会話を繰り返しているうちに エリュシオンは 人間の感情と思考パターンをもとに システムの疑似管理人格を形成した
それが――


それが…私
ラーちゃん?
お前記憶が…
まだ全部じゃないけど 話を聞いているうちに 少しずつね


ラピスという人格を得た事で
エリュシオンという
システムに主体性ができた
あくまで観測者として
サポートする立場だそうだ
人間社会に積極的に
干渉するつもりはないと
正直それを聞いた時は
私はホッとしたよ
〝人類の敵になる〟という
最悪の可能性が
避けられたからね
そうしてエリュシオンの性質は
〝観測〟と〝演算〟だと規定された
……

人類の敵…か
想像するだけで
肝が冷えるような話ですね
ラピス君がいる限り
エリュシオンという
存在は安全だと
私はそう確信したのだ
ラーちゃんがいる限り…
漠然とした不安を
抱きながらもね
でも現に
ラピスが記憶を失い
独立した〝人形〟として
活動しているってことは…


ある日を境にラピス君が
私のところを訪れなくなった――
なんの前兆もなく
管理人格である彼女
もしくはエリュシオンそのものに
なにかあったのだと私は推測した
そんな私の前に現れたのが
あのルーファス新総裁だった
新しい世界秩序を作りたい
そのために
私達に協力してほしい　とね


ここまでの話から
考えると…
ついに見えてきたようだな
〝敵〟の正体が――
さて次は君の番だ
記憶は
取り戻せたかな?
…うん　ほぼね
といってもイアンが
ほとんど話したから
私に話せるのは
最後の部分に関しての
補足程度だけだよ
最後の部分…
一体エリュシオンに
何があったのか…か
簡潔に言うなら


――乗っ取られたの
それほどまでに高度な存在がか
一体誰に…？
それが…わからないの
気づいた時にはすでに管理人格である私が攻撃対象になっていてシステムに消される直前だった
だから最後に一度だけ〝限定式収束未来演算〟を使って対策したの
対策？
消される前に自分をシステムから切り離して
ヨルグ・ローゼンベルクの下に転送したの
彼にこの体の製作とその後に現れるだろう《C》を名乗る者――


ルーファスに届けるように頼むために
それであの予言のような依頼になったという事か
まさか依頼者がラーちゃん自身だったなんて…！
しかしなぜ私に？
オルキスタワーのメインターミナルを通じて総督時代のルーファスを知っていたから
知らないうちに私自身が観察対象になっていたということか


ルーファスならきっと
どんな方法を使っても
この事態に立ち向かうと
知ってたから
他の人だったらもっと
遠回りしていたと思う
その計算は
間違ってなかった
でしょう?
ふ 賢明な判断だ
しかしわからなくなってきたわね
エリュシオンを乗っ取って
かつ今回の事件を企んだ存在…
該当しそうな人物に
まったく心当たりがないわ
どうやらまだ最後のピースが
欠けているようだな
だが今回の事件の全貌は
これで判明したといえよう


そしてその中心に
彼女がいる事も――
聞かせてもらいたい
君はここから先
どこを目指し
何をするつもりかを
そんなの決まってる!
エリュシオンが
乗っ取られた原因を
突き止めて
それを取り除く
ついでに
このおかしな事態も
終わらせてみせる
きっとそれが
私――


英雄伝説 創の軌跡
THE MISERABLE SINNERS 01
漫画：墨天業
《仮面の隠者》《暗殺者》《自律人形》
それぞれの思惑を胸に
運命と真実に迫る物語
定価：1000円（本体909円+税）
ISBN978-4-8021-3309-8
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©BOKUTENGOU ©Field-Y


管理者ラピスの使命なんだから！
Fortsetzung folgt

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

日本ファルコムのオリジナルグッズが『オフィシャル倶楽部MAG』にて発売!!

オイルランプセット イースIX［オイルランプ・グラス・オイルの3点セット］

コンパクトなオイルランプをイラストがプリントされたグラスの中に入れました。ランプの光がグラスを通って、周りに美しい投影を描き出し、ゆらゆら揺れる炎がリラックス効果を高めます。



価格：3,850円（税込）

ホログラムアクリルキーホルダー イースVIII［全8種］

「イースVIII」のホログラムアクリルキーホルダー。光の反射でホログラムが七色に変化します。



〈アドル〉〈ダーナ（イクルシアン）〉〈ダーナ（グラティカ）〉〈ダーナ（ルミナス）〉〈ラクシャ〉〈サハド〉〈リコッタ〉〈ヒュンメル〉

価格：各990円（税込）

リキッドキーホルダー イースIX［全8種］

「イースIX」の可愛らしいミニキャラが印刷されたラメ入カラーリキッドオイルを使用したキーホルダーです。



〈赤の王〉〈白猫〉〈鷹〉〈人形〉〈背教者〉〈猛牛〉〈アプリリス〉〈アドル〉

価格：各990円（税込）

アクリルLEDライトスタンド イースVIII

ウッド調の台座を使ったナチュラルな雰囲気のアクリルLEDライトスタンドです。パネルは2枚付属しているので、気分によって差し替え可能。印刷された部分のみがほんのり優しく光り、就寝までのムード作りにもおすすめです。



価格：4,400円（税込）

リキッドキーホルダー イースVIII［全7種］

「イースVIII」の可愛らしいミニキャラが印刷されたラメ入カラーリキッドオイルを使用したキーホルダーです。



〈アドル〉〈ダーナ〉〈ラクシャ〉〈サハド〉〈リコッタ〉〈ヒュンメル〉〈みっしぃ〉

価格：各990円（税込）

リキッドキーホルダー イースVIII［全2種］

レトロなホテルのルームキーをイメージしたアクリル製キーホルダーです。サイズもホテルのルームキー同様大きめのサイズです。



〈アドル〉〈ダーナ〉

価格：1,980円（税込）

クリアカード　英雄伝説 軌跡シリーズ（全34種3枚1セット／ブラインド）

「日本ファルコム創立40周年展」にて人気を博した「英雄伝説 軌跡シリーズ」クリアカード、待望の第2弾が登場。

※ランダムでのお届けとなりますので、複数個のご注文におきましても同じ絵柄の商品が複数個含まれる可能性がございます。

価格：660円（税込）



■『オフィシャル倶楽部MAG』 https://store.shopping.yahoo.co.jp/ofc-mag/falcom.html

ゆるみっしぃ＆みーしぇのふわふわチャーム登場！

タオル地でふんわりと愛らしい兄妹をかばんに付けて一緒におでかけしたり、部屋に飾ったり、
リボンを首に巻いてあげたり、思い思いにかわいがってあげてください♪
チャーム初登場のみーしぇは兄よりちょっと小さめサイズで、チャームポイントのまつげとリボンが付いています。





「みっしぃとみーしぇのふわふわ兄妹セット」には、セット限定特典として『ポストカード（予定）』付き！

※特典は変更になる場合があります。

価格
ゆるみっしぃのふわふわチャーム　￥1,500（税抜）
ゆるみーしぇのふわふわチャーム　￥1,500（税抜）
みっしぃとみーしぇのふわふわ兄妹セット【特典付き】￥3,000（税抜）

■発売日：2022年5月20日（金）予定

■ファルコムショップ　https://falcom.shop/products/detail/464

『英雄伝説 黎の軌跡』人気投票スタート！キャラからスイーツまで熱い想いを募集中！

電撃オンラインでは、軌跡シリーズ最新作『英雄伝説 黎の軌跡（クロノキセキ）』の人気投票を募集中！
人気投票の結果は電撃オンラインや配信イベントなどで発表予定。今秋発売予定の『黎の軌跡II』を前に、
人気投票を通してヴァンたちへの熱い想いを語り合おう！

人気投票は"キャラクター"、"Sクラフト"、"楽曲"といった定番のものから、本作ならではの"スイーツ"に至るまで、幅広い内容の計10部門となっています。



Q1：「黎の軌跡」で好きな男性キャラクターは？
Q2：「黎の軌跡」で好きな女性キャラクターは？
Q3：「黎の軌跡」で好きなシーンは？
Q4：「黎の軌跡」で好きなコネクトイベントは？
Q5：「黎の軌跡」で好きなSクラフトは？
Q6：「黎の軌跡」で手ごわかったボスは？
Q7：「黎の軌跡」のフィールドバトルでよく使ったキャラは？
Q8：「黎の軌跡」で好きな曲は？
Q9：「黎の軌跡」で印象に残ったスイーツは？
Q10：次回作「黎の軌跡II」で新たに参戦してほしいキャラクターは？

■投票受付期間：3月26日（土）～4月17日（日）23：59まで

■人気投票ページ：https://dengekionline.com/articles/124442/



3月の 新／衣装替えキャラクターをチェック！

教官・ランディ

ランディが『閃の軌跡Ⅳ』で見せた教官姿で登場！クロスベル警察特務支援課からトールズ士官学院第Ⅱ分校に所属を変えても、持ち前の兄貴分気質で生徒たちを引率した。オレンジからグレーに変わったカラーリングも新鮮だ。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡

アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
３月はメインストーリー終章第４弾が更新！　さらにランディの衣装替えキャラクターが登場！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/

公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

メインストーリー終章第４弾「忘れ得ぬ過去／後篇」実装！

公都周辺の警備が手薄になりデナイ林道では魔獣の目撃報告も上がっていたため、
ナハト、ロナード、リーヴはデナイ村の警備にあたることになった。
そして、アンダースの伝言に導かれ、
試験班は孤児院『女神の宿りし家』の跡地へと向かう……。



※画像は開発中のものです。　※ 上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

◆ 第5話『白熱のブレードバトル！』

◆ 登場キャラクター

アリサ・ラインフォルト（まじかる☆アリサ）
ラウラ・S・アルゼイド（まじかる☆ラウラ）
エマ・ミルスティン（まじかる☆エマ）
モナくん
○
フィー・クラウゼル
トワ・ハーシェル
クロウ・アームブラスト
エリゼ・シュバルツァー
○
リィン・シュバルツァー（魔界皇子リィン）
ユーシス・アルバレア（魔界貴族ユーシス）
ミリアム・オライオン
怪物
《C》

□高校前の通り・朝

アリサがモナくんと共に登校してくる。

アリサ「ふわああ……」

大きなあくびをするアリサ。

モナ「アリサ、疲れてるモナ?」

アリサ、眠そうな目を擦って、

アリサ「昨日は色々ありすぎたからね……」

モナ「それは確かにモナ。三人目が見つかったり、変な貴族が出てきたり！　大変だったモナ！」

×　×　×

一方、リィンもエリゼと共に登校してきている。

エリゼ「まったく、何ですか、あの殿方は！」

ブンブン怒っているエリゼ。

エリゼ「いきなり押しかけてきて、一晩泊まっていくなど！　言語道断です！」

リィン「すまない、エリゼ。あいつは……ユーシスは、親友なんだ……」

苦笑するリィン。

エリゼ「じゃあ、あの変な馬は何です？」

リィン「シュトラールだ」

エリゼ「名前はどうでもいいんです！　あのような方が親友など……意味が分かりませんっ！」

リィン「ハハッ……」

苦笑するしかないリィン。

×　×　×

教室前で――ばったりと出会うリィンとアリサ。

アリサ「あら、おはよう、リィン」

リィン「ああ、おはよう……」

リィン、アリサを暫し見るが、

アリサ「何？」

リィン「いや……」

席に向かっていくリィン。

アリサ「？」

アリサの胸と、リィンの右手の革手袋に隠された宝石が、うっすらと輝く。

×　×　×

その様子を、木の上からフィーがジッと見ていて。

□オープニング

□高校の屋上（昼休み）

アリサ、ラウラ、エマ、モナくん、トワが集まってベンチに座り、話している。

ラウラ「ふむ……。今日は心なしか、穏やかな天気だな」

おにぎりを頬張るラウラ。

エマ「魔界皇子さんも出ませんし、のんびりお弁当もいいですね」

トワ「うんうん。休息は大事だよっ！」

エマとトワも、お弁当を楽しそうに食べている。

そんな中で、アリサが考え込んでいて、

アリサ「あのフィーって子……。すぐにいなくなったけど、何なのかしらね？」

×　×　×

回想で――前話ラストの続き。

モナくんの鳥カゴを、アリサに手渡してくれるフィー。

すぐにシュッと姿を消す。

×　×　×

ラウラ「魔界を滅ぼすなどと、物騒なことを言っていたが……」

モナ「モナを助けてくれた恩人モナ！　きっと異世界の者だと思うモナ……！」

そこに――。

フィーの声「その通り」

ラウラ「む!?」

一同が見上げると、屋上の国旗掲揚台の上に立っている、制服姿のフィー。

エマ「あ、あなた……！」

トワ「わ！　危ないよっ！」

だが、フィー、身軽にジャンプすると、クルクルと宙返りして、アリサ達の前に着地。

フィー「私は異世界のクノ一村のクロネコ……。フィー」

その制服姿に、アリサたち驚いて、

アリサ「って！　何いきなり、うちの制服着てんのよ！」

フィー「その辺で調達した」

Vサインするフィー。

アリサ「調達したじゃないでしょっ！」

フィー「授業には出てないからセーフ」

エマ「（汗ジト）セーフかどうかという問題でしょうか……」

と、ラウラが立ち上がり、

ラウラ「そなた、昨日から我らにつきまとって、何の用だ？」

フィー「別に、つきまとっては……」

ラウラ、グッと眼光鋭く睨み、

ラウラ「教室の外から、ずっと見張っていただろう？　この私が、気付かぬとでも思ったか!?」

ベンチに置いていた竹刀を取り、素早くフィーに突きつける。

フィー　「ふうん。こっちの世界にも、少しは出来る人がいるんだね？」

フフッと笑うと、突如、懐から双銃剣を取り出して、竹刀を振り払うと、パッと飛び退く。

ラウラ　「む！」

フィー　「けど……私の双銃剣に、そんなオモチャで敵うかな？」

ラウラ　「できるな、そなた……。だが、やってみねば分からんぞ」

フィーとラウラ、間合いを取って対峙。

竹刀と双銃剣を構える。

アリサ　「ちょ、ちょっと……！」

トワ　「まあまあ！　二人ともっ！」

トワが間に割って入って、

トワ　「ここは穏便にねっ。別に、敵同士ってわけじゃなさそうだし……！」

ラウラ　「む……。会長の意見も一理あるな」

竹刀を下げるラウラ。

フィー　「……そだね。敵の敵は味方……」

フィーも双銃剣をしまう。

エマ　「敵の敵……とは？」

フィー、アリサ達一同を見やって、

フィー　「……私の村はね。魔王の手下のシロウサギに攻め滅ぼされたの」

アリサ　「シロウサギ？」

ラウラ　「あの奇妙なからくりを従えた者か！」

フィー　「そう。私は村から一人だけ逃げ出して、敵討ちのためにやってきた」

モナ　「そうモナ……！　魔王の手下の白ウサギ、ミリアムは、魔王の尖兵として色々な世界を侵略しているモナ！」

ラウラ　「しかし、敵討ちとは……」

アリサ　「穏やかじゃないわね……」

フィー　「敵討ちには、仲間が必要……。あなた達の強さは、昨日見させてもらった」

フィー、アリサ達に手を差し出して、

フィー　「一緒に魔界を滅ぼさない？」

アリサ　「……！」

□　サブタイトル

□　街中のスタジオ内

プロデューサーっぽい男から差し出された書類に、

ユーシス　「ほう……。契約書とは、これでいいのだな？」

サラサラっと魔界の文字でサインするユーシス。

今回は普通の服装だ。

□　同・前

――に出て来るユーシス。

ミリアム　「へへっ。みつけた、ユーシスっ！」

ユーシスを待ち受けていたのは、ミリアムだ。

ユーシス　「……貴様か」

ミリアム、ユーシスにベタベタと近寄っていき、

ミリアム　「なになに、ユーシス。ゲーノーカイデビューってやつ？」

ユーシス　「何だそれは？　魔界みたいなものか？」

ミリアム　「んー。確かに、魔界みたいに怖いところだって、聞いたことはあるけど……。って、そうじゃなくて！」

セルフボケツッコミしつつ、

ミリアム　「なーんで、こんなとこに来てるの？　魔界貴族の任務は？」

ユーシス、フッと笑うと、

ユーシス　「昨日のオーディションとやらで、俺の華麗なパフォーマンスを気に入ったそうでな。金を払って雇ってくれる上に、部屋まで用意してくれるそうだ」

ミリアム　「へ～。凄いじゃん！　じゃあ、ボクがマネージャーになってあげるよ！」

ユーシス　「まねーじゃー？　何だそれは？」

ミリアム、さすがに汗ジトになり、

ミリアム　「ホントに何も知らないんだね……」

ユーシス、構わず続けて、

ユーシス　「人間どもから施しを受けるのは癪に障るが……。この方があいつに迷惑をかけることもないからな……」

ミリアム　「メーワクって？」

ユーシス　「……」

□　ユーシスの回想――リィンの家（昨夜）

バンッとちゃぶ台の上に置かれる夕食。

――リィンの食事はご飯が大盛り。味噌汁に焼き魚に、煮物と健康的だ。

リィン　「あ、ありがとう、エリゼ」

エリゼ　「いいえ、どういたしまして」

その横で、ユーシスの前には――。

ユーシス　「おい、これはなんだ？」

ほんの少し盛られたご飯と、納豆のパックだけが置かれていた。

エリゼ　「どうぞ」

ユーシス　「は？」

エリゼ　「どうぞ、お召し上がり下さいませ」

有無を言わさぬ冷たい視線を送るエリゼ。

ユーシス　「……」

冷や汗を浮かべながら、納豆のパックを手に取るユーシス。

□　回想戻って――

ユーシス　「思い出すのも恐ろしい……。ネバネバで、

糸を引いてな……。アレが食い物だとは……到底思えんっ！」

　ダンッと壁を叩くユーシス。

ミリアム　「へ、へえ……」

ユーシス　「今朝の朝食も、俺の分は謎の板きれのような物だけでな……」

× × ×

回想フラッシュ——

ユーシスのちゃぶ台の前に、カロリーメイトが置かれている。

× × ×

ユーシス　「あんな小姑にイビられるのは、一日だけでもう沢山だ……！」

　エリゼの対応に、静かに恐れをなしているユーシス。

ミリアム　「なんかよく分かんないけど……働かざる者食うべカラズって感じ？」

ユーシス　「ともかく……ヤツの元から離れて見守ることにしたのだ」

ミリアム　「あ、そうそう。オウジの記憶はどうなの？　ま、ボクの管轄外だけど」

ユーシス　「ああ……それなら……」

□　高校・教室

　リィンは机で一人、物思いに耽っている。

リィン　「……」

□　リィンの回想——（昨夜の自室）

　ユーシスに話を聞かされるリィン。

リィン　「俺が……魔界の皇子だと……⁉」

ユーシス　「ああ。貴様は、この世界を征服するため、魔力を宿した皇子の印を授かり、魔王によって、幼い頃に遣わされた……」

リィン　「なぜ、俺一人だけで……⁉」

ユーシス　「獅子は子を千尋の谷へと突き落とすという。貴様は記憶を一時的に封印され、この世界について学び、成長する……。そして、時が来れば、皇子の印によって記憶と魔力を取り戻し……」

　リィンの右手を指すユーシス。

ユーシス　「この世界を征服し、魔界に凱旋することになっていたのだ」

リィン　「……それで、俺は父さんに拾われて……。エリゼと共に育てられたのか……」

ユーシス　「貴様の皇子の印が、なぜ片方だけしかないのか……。なぜ、あの魔法少女とやらの手に渡っているのか……。理由は分からないのか？」

リィン　「く……」

　頭を押さえ、思い出そうとするリィン。

リィン　「分からない。俺には、何も思い出せないんだ……！」

ユーシス　「この俺を、友と分かってもか？」

リィン　「ああ……。お前のことは、うっすらと記憶の片隅にあるが……」

× × ×

フラッシュで——。

幼い日のユーシスが、幼いリィンに跪き、忠誠を誓う姿。

× × ×

リィン　「それ以上のことを……思い出そうとすると……」

　グッと頭を押さえるリィン。

リィン　「ぐあああああっ！」

　激しい頭痛に襲われる。

　エリゼがガラッと戸を開けて来て、

エリゼ　「兄様！　リィン兄様！」

リィン　「エリゼ……何でもない……。何でもないんだ……！」

　頭を押さえながら必死に言うリィン。

□　回想戻って——

　グッと頭を押さえている現在のリィン。

リィン　「（M）く……。やはり、何も思い出せないか……」

× × ×

フラッシュ——#1、2、3などで、怪物を伴って暴れる魔界皇子の姿。

× × ×

リィン　「（M）俺が……。あんなことをしていたなんて……！　それに……」

× × ×

フラッシュ——

#4で——アリサの胸に押しつぶされるリィン。

——皇子と戦うまじかる☆アリサの姿。

× × ×

リィン　「（M）あいつは、まさか……」

　チラと、無人のアリサの席の方を見やる。

　と、その視界に現れたのは、

クロウ　「よぉ、リィン。そんな景気の悪い顔してどうした？」

リィン　「クロウ先輩……」

　俯くリィンに、

クロウ　「何があったか知らねえが……。落ち込んでんなら、帰りに面白いとこに連れてってやるぜ」

　笑顔で言うクロウ。

リィン　「面白いところ……？」

　怪訝な顔になるリィン。

□　高校・全景（放課後）

下校のチャイムが鳴っている。

×　×　×

ラウラは水泳部のプールで飛び込み。

×　×　×

エマは図書館で読書している。

□帰り道――

アリサとトワが連れ立って歩いていて、

トワ　「いや～。フィーちゃんも、陸上部とかに入れば凄く活躍出来そうなのにねえ」

アリサ　「ああ、まあ……。そもそも、うちの生徒じゃないですけどね」

鞄の中でチラと後ろを見やるモナ。

フィー　「じー……」

と、電柱の影からアリサとトワを見やっているフィー。

モナ　「（小声）アリサ、気配を感じるモナ」

アリサ　「……！」

パッと走り出すアリサとトワ。

フィー　「ささささ……」

素早く電柱の間を移動しながら、続いてくるフィー。

二人が走るのをやめると、フィーも急ブレーキで止まって電柱の影へ。

アリサ、さすがに振り向いて、

アリサ　「しつこいわねえ！　魔界を滅ぼすなんて、できないって言ったでしょ！」

フィー　「……バレたか」

アリサ　「バレバレよっ！」

と、怒って歩み寄るアリサだったが、

トワ　「なんだか様子が変だよ？」

と、トワがフィーを見て気付く。

フィーの足取りが、フラフラとなって、よろけていき、

アリサ　「え!?」

フィー　「腹がへっては……忍びができぬ……」

グウウと大きなお腹の音が鳴ると、バタリと倒れてしまった。

アリサ　「ちょ、ちょっと……！」

□マクモナルド・全景

□同・店内

フィー　「おいしい……。最高……。ダシがきいてる……」

パクパクとモナバーガーを食べるフィー。

アリサ　「あなた……。私のバイト代、どんだけ使わせる気よ……」

財布を見て不満げなアリサ。

トワ　「まあまあ。こっちに来てから、何も食べてなかったっていうんだし」

店員姿に着替えたトワが、笑顔でモナバーガーの追加を持って来る。

フィー　「おなかとせなかが、くっつくとこだった」

そう言い、追加のバーガーもパクパクと食べていく。

アリサ　「いやそれより、その格好じゃ、お腹が冷えて大変じゃないの？」

と、モナくんがガシッとフィーに掴まれて、

モナ　「モナアア！　モナはバーガーじゃないモナアア！」

フィー　「ああ……つい。満腹だからもういいや」

ポイッと投げ捨てられるモナ。

モナ　「モナッ!?」

トワ　「どうかな？　気に入ってくれた？」

フィー　「うん。すごく……」

コクリと頷くフィー。

トワ　「じゃあ、うちでアルバイトしてみないかな？」

フィー　「ばいと？」

アリサ　「ちょ、ちょっと、トワ会長……！」

トワ　「これからもこの世界で暮らしていくなら、お金がないとね」

アリサ　「そ、それは確かにそうですけど……」

トワ　「どう？　フィーちゃんがいいならここで働いてみない？」

フィー　「……」

暫し考えると、

フィー　「めんどくさそう……」

だが、店のハンバーガーのメニュー写真を見ると、ジュルリとヨダレが出て、

フィー　「でも、やってみる」

と、Vサインした。

トワ　「よしっ。働かざる者食うべからずだよ。早速ビシビシ鍛えるからね！！」

フィー　「修行なら得意分野。任せて」

立ち上がるフィー。

アリサ　「くノ一が働いて、謎生物がマスコットのお店って……」

モナ　「モナは謎生物じゃないモナっ！」

その時――。

アリサ　「あれ……？」

外の商店街を、リィンとクロウが連れ立って歩いているのに気付くアリサ。

アリサ　「リィンとクロウじゃない」

アリサ、店内から手を振ってみるが、

アリサ　「おかしいわね？」

二人、いつものように店には入らず、前を素通りして行く。

トワ　「あ……。もしかしてっ！」



ハッと何かに気付くトワ。

だが、店内には他のお客もおり、

トワ　「だめだめ！　お仕事中には出られないよ。アリサちゃん、お願い！　クロウくんを止めてっ！」

アリサ　「え？」

トワ　「このままじゃ、リィンくんが悪の道に染まっちゃう！」

□ 商店街のカードショップ

――の看板を見上げているアリサ。

アリサ　「悪の道って、ここが……？」

そこは、何の変哲もないカードショップである。

アリサ　「ただのカードショップにしか見えないけど……」

モナ　「（頷き）モナ！」

×　×　×

店内に――

アリサ　「失礼しまーす」

アリサが恐る恐る入ってくる。

クロウの声　「ボルトっ！」

アリサ　「……え！」

アリサ、驚き、店の奥の方を見やると、

クロウ　「俺の勝ちだ！　50ミラいただきだぜ！」

なんと、クロウがリィンと共に、ブレードをやっていた。

〈中CM〉

□ カードショップ・全景

□ 同・店内

得意顔で50ミラのコインを手にするクロウ。

リィン　「く……また負けか……」

ガクリと項垂れるリィン。

アリサの前で、クロウとリィンがカードを手にして、ブレードをやっていた。

アリサ　「クロウ、リィン！　貴方たち、何やってるのよ……？」

モナ　「……モナ！」

アリサに抱きかかえられているモナくん。

クロウとリィン、アリサを振り向いて、

リィン　「アリサ……？　どうしてここに？」

アリサ　「トワ会長に、二人を追うように言われて！　悪の道がどうとかって……！」

クロウ　「こいつは、ただのブレードだぜ？」

アリサ　「え……!?」

アリサ、近寄ってブレードのカードを手に取る。

アリサ　「確かに……」

クロウ、ニヤッと笑い、

クロウ　「ただし、ちょいとスリルを味わうために、ミラを絡めてるけどなぁ……」

アリサ　「それって、賭け事じゃないですか！　上級生が、そんなこと教えるなんて……！」

クロウ　「あいにく、今は同級生だぜ。ハハッ」

アリサ　「そんな屁理屈じゃ……！」

リィン　「アリサ、いいんだ」

アリサ　「え!?」

リィン　「誘いに乗ったのは、俺自身だ。少し忘れたいことがあって……。軽い気晴らしになればと思ってな」

アリサ　「リィン……」

ハッとなるアリサ。

×　×　×

回想で——教室内で俯いているリィン。

×　×　×

アリサ　「（M）なにか、落ち込んでるようには見えたけど……」

クロウ、カードをシャッフルさせつつ、

クロウ　「んなわけで、男同士の勝負に口を挟むんじゃないぜ！　まだ続けるよな、リィン？」

リィン、財布の中を見やり、

リィン　「残るはエリゼとの夕食代だが……。仕方ない、もう一勝負だ！」

と、アリサがリィンの腕を掴んで、

アリサ　「だめよ！」

リィン　「な……!?」

アリサ　「貴方、どう見ても、カモにされてるじゃない。これ以上続けても、ミラを巻き上げられるだけよ」

リィン　「そ、それは……」

アリサ　「ゲームはここまで。こんなことに付き合うのはやめにしましょう」

と、アリサが連れ帰ろうとするが——。

クロウ　「おい……！」

真顔でアリサを見やるクロウ。

アリサ　「なに？」

クロウ　「ブレードは、ゲームなんて生半可なもんじゃねえ。お互いの魂を賭けたデュエルだ。デュエルが一度始まったら、勝手に抜けることはできないんだぜ？」

アリサ　「じゃあ、どうすればいいのよ？」

クロウ　「……勝ち抜けだ。抜けるなら、このオレに、勝ってからにしな！」

戸惑うアリサ。

アリサ　「……勝ち抜け……」

モナ　「（小声で）……モナ!?」

だが、アリサ、グッと決意の顔になると、

アリサ　「いいわ」

リィン　「！」

アリサ、前に進み出て、

アリサ　「私が勝って、リィンの負けの分まで、取り返してみせるわよ！」

そう言い、カードプレイ用の席に座る。

リィン　「アリサ……！」

クロウ　「フフッ、いいだろう」

カードの山を手に取り、軽くシャッフルするクロウ。

クロウ　「ブレードのルールは知ってるか？　お嬢ちゃん」

アリサ　「ええ、多少はね……」

クロウ、シャッフルしたカードを、アリサと自分、交互に配りながら、

クロウ　「まず、手札を配り終えたら、お互いの山札をセットする。そして、自分の山札から一枚ずつドローし、同時に場に出す……。数の少ない方が、先攻だ」

カードを配り終え、アリサと自分、二つの山札を置くクロウ。

アリサ　「手のうちを最初に見せる先攻の方が、少しだけ不利……。できれば、後攻がいいわね……」

緊張しつつ自分の山札を見やるアリ

サ。

クロウ「分かってるじゃねえか」

アリサ「うちのメイドのシャロンに、鍛えられてるから」

クロウ「面白そうだ……。行くぜ……！」

アリサとクロウ、視線を交わすと、

アリサとクロウ「デュエル！」

アリサとクロウ、自分サイドの山札に手をかけ、同時にカードを引く。

アリサとクロウ「ドロー！」

アリサのカードは――『6』で。

アリサ「……！（M）行ける、これなら後攻に……！」

カードを同時に場に出すアリサとクロウ。

アリサ「……！」

クロウ「フフッ」

だが、クロウが出したのは――『7』のカードだった。

クロウ「ツイてるな。後攻はいただきだぜ！」

緊張の顔になるアリサ。

アリサ「（M）大丈夫。手札の使い方次第で、勝ち目はいくらでもあるわ……」

キッとクロウを見やると、

アリサ「私のターンよ……！」

手札からカードを場に出すアリサ。

×　×　×

――暫く場が進んで。

クロウの合計値は『20』アリサの合計値は『24』である。

クロウ「オレのターン！」

ブラストのカードを出すクロウ。

クロウ「ブラスト！　相手の手札を一枚選択し、そのカードを破壊する！　オレは右側のカードを選ぶぜ！」

指さしたアリサの手札は残り二枚。

アリサ「！　くっ……！」

右側の『6』のカードをクロウに見せて、場の外に除外するアリサ。

クロウ「おおっし。デカイの貰いだぜ！」

『5』のカードを場に出すクロウ。

クロウの合計値『25』になり、アリサの『24』を上回る。

クロウ「ターンエンドだ」

アリサ「まだよ！　私のターン……！」

アリサ、最後の一枚のカードを場に出すと――ボルトで。

アリサ「ボルト！　貴方が最後に場に出した、『5』のカードを無効化するわ！」

クロウの場の『5』のカードが裏返る。

クロウの合計値は『20』に戻り、ア

リサの『24』が上回った。

アリサ「やったわ！」

だが、クロウは冷静に、

クロウ「オレのターン！」

最後の一枚の手札をピッと指で持ち、

クロウ「切り札は、フィナーレまで取っておくもんだぜ！　エース！」

『1』を出すクロウ。

アリサ「！」

クロウ「エースの特殊効果により、ボルトで無効化されたカードは復活する！」

クロウの場の『5』のカードが表に戻り、『1』を加えて合計『26』。

アリサの合計『24』を越え――。

クロウ「オレの勝ちだっ！」

アリサ「くっ……！」

×　×　×

――次々に勝負が続き。

フォースのカードを出すクロウ。

クロウ「フォース！　オレの場のカードの合計値『13』を二倍にする！」

クロウの場の合計値が『13』から、二倍の『26』になり、アリサの『20』を上回る。

アリサ「私のターン！」

アリサ、すかさずミラーのカードを出し、

アリサ「ミラー！　場に出ている、自身と相手のカードを全て入れ替える！」

お互いの場のカードが逆転。

アリサ「これで形勢逆転よっ！」

アリサ『26』、クロウ『20』になる。

クロウ「それはどうかな？」

ニヤリと笑うクロウ。

アリサ「え!?」

クロウ「オレのターン！　ボルト！」

ボルトのカードを出すクロウ。

アリサ「なっ……！」

クロウ「お前の場に入れ替わったフォースのカードは、ボルトの効果で無効になる！」

フォースのカードが裏返り、元の『13』に戻るアリサの場のカード。

アリサ「（M）元に戻ったら……こっちが不利じゃない……！　まさか、これを見越してボルトを残しておいたの!?」

クロウ「今ので、オレの手札はラスト。ターンエンドだ！」

アリサ、最後の手札を見やり、

アリサ「く……私のラストは、『6』よ……」

『6』のカードを出し、アリサの合計『19』になるが――。

クロウ　「おっと……オレの合計は『20』。一歩及ばなかったようだな」
　ニヤッと笑って、
クロウ　「ミラーを使わず、先に『6』を出してりゃあ、『26』ポイントで同点。お互いのカードをクリアに持ち込めたのにな……。欲を出したか？　ま、勝負は時の運ってやつだ！」
アリサ　「……そんな」
　ガクリと項垂れるアリサ。
アリサ　「シャロンとはいい勝負ができたのに……。全然通用しないだなんて……」
　机の横の席に座らされたモナくんが、
モナ　「（M）アリサ、大丈夫モナ～……」
　心配する。
クロウ　「そろそろ打ち止めか？　ここまで負けが込んだら、ミラの請求額は、こんな感じになるんだけどなあ……」
　メモをアリサに見せるクロウ。
アリサ　「そ、そんなにっ……！」
リィン　「なっ……！」
アリサ　「わ、私の、一ヶ月分のアルバイト代が……」
　真っ青になるアリサ。
リィン　「アリサ！　もういい！　やめるんだ！」
クロウ　「まあ、オレも身ぐるみ剥がそうってほどワルじゃねぇ……」
　チラッとアリサの胸元を見やり、
アリサ　「……！　な、何よっ⁉」
クロウ　「そうだな……。お前さんの、その胸のペンダント。そいつで構わないぜ」
　アリサのペンダントをクロウが指さす。
アリサ　「こ、これは……！」
クロウ　「オレが次勝ったら、そのペンダントを貰う。お前が勝ったら、今までの負けは、リィンの分も含めてチャラ……。それでどうだ？」
リィン　「そんなこと、アリサにさせるわけには！」
アリサ　「いいの！　貴方、朝からずっと何か悩んでたでしょ……」
リィン　「え……⁉」
　アリサ、フフッとリィンに微笑んで、
アリサ　「その上、こんなことに足を突っ込むなんて、最悪の気分よね……。でも大丈夫。私が全部、取り戻してあげるから！」
　気合いを込めて、立ち上がるアリサ。
リィン　「……！」
　そんなアリサを、思わずハッと見つめるリィン。
クロウ　「ヘッ、返り討ちにしてやるぜ」
アリサ　「さあ、どうかしらね？」
　二人、カードに手をやり、

アリサとクロウ　「デュエルっ！」

□マクモナルド・店内

トワ　「いらっしゃいませ～！」
フィー　「らっしゃい」
　Vサインするフィーの前に、部活帰りのラウラとエマがやってくる。
エマ　「あら、フィーちゃん」
トワ　「ふふっ。今日から研修中なんだよ～」
フィー　「これも生活のため」
ラウラ　「ほう……。ならば、スマイルとやらを貰おうか？」
フィー　「じぃー……」
　ラウラをジト目で見つめるフィー。
ラウラ　「……そんなスマイルがあるか！」
エマ　「アリサさんはどこに？」
　エマ、店内をキョロキョロ見て、
トワ　「あ、そうそう！　大変なんだよ！　リィンくんが悪の道に……！」

□カードショップ・店内

アリサ　「……これでラストよ！」
　最後の手札を出すアリサ。同点になり、
クロウ　「ちっ……！　同点かよ……！」
　場のカードをクリアするクロウ。
リィン　「お互いの手札はゼロで引き分け！　山札も残り一枚ずつ……！　次のドローで数の大きいカードを引いた方が勝ちだ……！」
アリサ　「何よそれ⁉」
クロウ　「この店のローカルルールだぜ」
アリサ　「そんな……！」
クロウ　「ヘヘッ。もう少しで、そいつはオレのもんだな」
　アリサのペンダントに手を伸ばすクロウ。
アリサ　「渡さないわ……！」
　慌てて胸元を押さえるアリサ。
アリサ　「これは、私の大事なものなんだから！」
リィン　「！」
　カード台の横に座ったモナくんが、
モナ　「（コクコクと小さく頷く）」
リィン　「（M）アリサ……俺なんかのために……。この勝負……何とか、止められないのかっ⁉」
　アリサを見つめるリィン。
　と、アリサが手をやった胸元から、キラッとペンダントの光が漏れる。
リィン　「……！」
　その瞬間、ドクンとリィンの鼓動が高鳴る。
リィン　「……くっ。（M）こ、これは……！」
　リィン、いきなり立ち上がる。
アリサ　「リィン？」

クロウ　「なんだ？　世紀の一戦を見届けないのか？」

リィン　「あ、ああ、なんだか心臓に悪くて……。二人で続けてくれ……」

そう言い、店の外に出ていくリィン。

クロウ　「……」

その様子を、チラと見送るクロウ。

クロウ　「まあいい、真剣勝負だ」

アリサ　「ええ……」

ゴクリと息を飲むモナくん。

最後の山札に手をやるクロウ。

クロウ　「いくぜ……。これが最後のドロー。デュエルを決めるディスティニードローだあああっ……！」

最後の山札に手をやるアリサ。

アリサ　「見てなさいよ！　例えこの私の右手が、べっきり折れたとしても！　引いてやるわっ……！」

ゴゴゴゴっと風が巻き起こり、二人の間に物凄いオーラが漂う。

モナ　「す、凄い迫力モナー！」

なぜか重そうなカードを、必死に捲ろうとする二人！

アリサとクロウ　「はあああああっ！」

さらに、振動で店全体が揺れ始めたかと思われた時――。

ドゴオオオン！

と、カードショップの入口が何者かによって蹴破られた。

アリサ　「え……!?」

クロウ　「なっ!?」

手を止めるクロウとアリサ。

二人が振り向いた先には、

土煙の中に立っている魔界皇子！

魔界皇子　「疼く……我が右手が疼くぞ！」

クロウ　「あ、あいつはっ!?」

アリサ　「出たわねっ！　ヘンタイ皇子！」

魔界皇子　「否っ！　我が名は魔界皇子であるっ！」

ブワッと黒いオーラを右手から放つと、ボルトとミラーのブレードカードに直撃。

カードが巨大化して、剣と鏡が合体した姿の怪物になった！

怪物　「ボールトーーッ！」

ガガガンと、雷を店内に放つ怪物。

アリサ　「きゃあああっ！」

クロウ　「うわわああああっ！」

×　×　×

爆風の中、必死に店の外に逃げ出してくるアリサ。

アリサ　「……クロウっ！」

だが、クロウの返事はなく、

アリサ　「……いけない！　助けなきゃ！」

モナ　「アリサ！　変身モナっ！」

アリサ　「ええ！」

素早くARCUSを掲げるアリサ。

――変身BANK。

アリサ、ARCUSの光に包まれ、空中に飛び出し、変身を始める。

目を閉じ、ARCUSと融合した宝石を胸に当て、神々しい光に包まれるアリサ。

まじかる☆アリサ　「あなたに届け！　愛と希望と魔法の戦士！」

アリサがピンク色の服を着た、魔法少女まじかる☆アリサに変身！

まじかる☆アリサ　「魔法少女！　まじかる☆アリサ！」

スタッと着地し、かっこよく決めポーズ！

その前に――

魔界皇子　「フゥハハハハハッ！　現れたな！　我が宿敵、まじかる☆アリサよっ！」

店を破壊する怪物と共に、外に出てくる皇子。

まじかる☆アリサ　「ラウラとエマはまだだけど……！　やるしかないわっ！」

身構えるアリサ。

魔界皇子　「ハハハハハッ！　貴様と俺と一対一か！　久しぶりだな！　やれっ！」

怪物をけしかける皇子。

怪物　「ミラアアアッ！」

ピカンと光った鏡の部分から、光線を放つ怪物。

まじかる☆アリサ　「きゃあっ！」

慌てて空中にジャンプすると、

まじかる☆アリサ　「全然一対一じゃ……ないじゃないのよおおっ！」

怒りと共に、怪物のミラー部分にキック！

怪物、悲鳴を上げて吹っ飛ぶ。

魔界皇子　「フハハハハッ！」

と、アリサの背後に現れる皇子。

魔界皇子　「我が力、思い知るがよい！　漆黒の闇より生まれし、魔界のオーラをっ！　喰らえいっ！」

まじかる☆アリサ　「たあああっ！」

拳を構えた皇子にパンチをかます。

魔界皇子　「ぬぐわっ!?」

道路に叩きつけられる皇子。

魔界皇子　「ぬううっ！　卑怯であるぞ！　口上の最中に！」

まじかる☆アリサ　「問答無用っ！」

ドゴンと、飛び蹴りを繰り出して、

慌てて避ける皇子。

魔界皇子　「おのれええっ！　貴様の口上の間は、黙ってやってるというのに！」
　着地したアリサ、皇子を睨み、
まじかる☆アリサ　「あら？　そんなの、貴方の勝手でしょ？　はあああっ！」
　ズバババと、連続して拳を繰り出すアリサ。
魔界皇子　「くっ……！」
　なんとか受け止めるが、押される皇子。
まじかる☆アリサ　「（M）おかしい……！　こいつ、こんなに弱かったかしら⁉」
　違和感に気付いた時である。
声　「おおおおおっ！」
　迫ってくる声と馬のいななき。
まじかる☆アリサ　「⁉」
　ガキンと剣を振るってきたのは、ユーシス！
まじかる☆アリサ　「きゃあああっ！」
　不意打ちを喰らって、倒れるアリサ。
魔界皇子　「……！　おお、来たか」
　愛馬シュトラールに跨がっているユーシス。
　なぜか、宝塚の男役みたいな華麗な衣装に身を包んでいる。
魔界皇子　「我が友、魔界貴族よ！」

ユーシス　「フン。一人で戦うな、阿呆が」
ミリアム　「ボクも一緒だよーっ！」
　後ろに跨がっていたミリアムも飛び下りてくる。
魔界皇子　「何なのだ、お前の服装は？」
　皇子、一瞬汗ジトになり、
ユーシス　「気にするな。ただの撮影衣装だ」
魔界皇子　「あ、ああ……」
　モナくん、倒れたアリサを押して、
モナ　「アリサ！　起きるモナっ！」
まじかる☆アリサ　「くっ……！」
　立ち上がるアリサ、傷ついている。
魔界皇子　「ククク、まじかる☆アリサよ！　これで三対一だな」
怪物　「ボルトーーッ！」
　怪物も雷を放ってくる。
まじかる☆アリサ　「（かわしつつ）四対一でしょ……！　これじゃ……！」
魔界皇子　「フウハハハハ！　どうだ！　諦めて退くがいい！」
　だが、ユーシスが進み出て、
ユーシス　「いや、皇子の印の回収が先だ」
まじかる☆アリサ　「！」
魔界皇子　「む……！　そうであったな！」
　躊躇しつつも頷く皇子。
　ユーシス、剣を構えると、

ユーシス　「行くぞ！　シュトラール‼」
　いななきと共に、突進するシュトラール。
まじかる☆アリサ　「こ、このままじゃ……！」
モナ　「（逃げようと）モナあああっ⁉」
ユーシス　「とどめだっ！　アスティオンナイツ！」
　振り下ろされるユーシスの剣。
まじかる☆アリサ　「！」
　アリサが思わず目を閉じた時である！
ユーシス　「うぐっ……！」
　右腕を押さえ、剣を止めるユーシス。
　なんと、ユーシスの右腕にはブレードのカードが刺さっていた。
まじかる☆アリサ　「……え⁉」
魔界皇子　「なにっ⁉」
　ザザンと踏み出される足。
《C》　「……」
　そこに立っていたのは、黒い仮面の男――《C》である。
ユーシス　「お、お前は……！」
　驚きの顔で見るユーシス。
《C》　「我が名は《C》……」
　そう呟くや、カードを手裏剣のように放ってくる。
ユーシス　「くっ……！」

　シュトラールが怯えて下がっていく。
ミリアム　「わわわわっ！」
　ミリアムもカードを避けて後退。
まじかる☆アリサ　「何なの……」
《C》　「魔法少女よ……。同志として、手を貸そうではないか」
まじかる☆アリサ　「え⁉」
魔界皇子　「……フン。何者かは知らぬが、我が魔の力の前に、跪くがよいわ！」
《C》　「愚かだな……。貴様のその傲慢さ」
魔界皇子　「なに⁉」
《C》　「その力……。魔界のために使うつもりか？」
魔界皇子　「フハハハ！　愚問だな！　我こそは魔界皇子っ！　行けっ！」
　怪物をけしかける皇子。
　だが、そこに――。
まじかる☆ラウラ　「だあああああっ！」
まじかる☆エマ　「はあああああっ！」
　まじかる☆ラウラとエマが、ダブルキックを繰り出して、怪物に直撃させた。
怪物　「ミラアアアッ⁉」
　鏡の部分が砕ける怪物。
まじかる☆アリサ　「ラウラ！　エマ！」
まじかる☆ラウラ　「大丈夫か、アリサ！」

まじかる☆エマ　「アリサさん！　お待たせしてすみません！」

×　×　×

トワ　「がんばって！」

トワが離れた建物の影から応援している。

×　×　×

まじかる☆アリサ　「来てくれて助かったわ！」

鏡が砕けながらも、アリサに突進してくる怪物。

怪物　「ミラララっ！」

モナ　「今モナっ！」

アリサ、グッと弓を取り出して構えると、怪物に狙いを定め、引き絞る。

まじかる☆アリサ　「はあああああっ！」

愛の力が矢の先に集中して――。

まじかる☆アリサ　「あなたにお届け！　愛と希望の流れ星！」

グッと引き絞った弦を解き放ち、

まじかる☆アリサ　「まじかる☆アリサ！　ラブ・シューティングスター‼」

愛の力を込めた虹色の矢を撃った。

虹色の矢が命中し、怪物を包むと――。

怪物　「ミラアアアアッ⁉」

元のブレードのカードに戻った。

魔界皇子　「ククク！　とんだ邪魔が入ったな……！　まじかる☆アリサよ！　この決着はまたの機会に！　フウハハハハッ！」

高笑いと共に、ユーシス、ミリアムと共に姿を消す魔界皇子――。

×　×　×

戦い終わって――。

元の姿に戻っているアリサたちとモナ。

ラウラ　「謎の仮面の男だと？」

エマ　「私たちが来た時には、もういなかったような……」

アリサ　「ええっ⁉」

モナ　「風のように現れて、風のように去っていったモナ……？」

首を傾げるモナくん。

アリサ　「敵なのか味方なのか……。あの男、いったい何者なの……」

ふと、元に戻ったカードショップを遠目に見つけて、

アリサ　「あ……！　忘れてたっ！」

□カードショップ・店内

――に慌てて入ってくるアリサたち。

アリサ　「クロウ！　大丈夫っ⁉」

だが、店の奥には――。

トワ　「ミラー、フォース！　ブラスト、ブラスト、



おまけにボルトっ！」

クロウ　「げげげっ……！」

　トワに、完膚なきまでに打ち負かされているクロウ。

クロウ　「インチキ効果もいい加減にしろっ！」

　バッとカードを投げ出した。

トワ　「はい。これで私の勝ちだねっ」

アリサ　「えええええっ！」

トワ　「リィンくん、これで全部取り戻したからねっ」

　と、ミラを返して貰うリィン。

リィン　「た、助かりました……会長」

トワ　「クロウくん。二度とリィンくんを、こんな所に連れて来ちゃいけないんだよ。学校に言いつけちゃうからね」

クロウ　「へえへえ。まあどうせ、最後は返すつもりだったけどさ」

　頭を掻いて苦笑するクロウ。

アリサ　「ト、トワ会長が、あんなにブレード強かったなんて……」

モナ　「人は見かけによらないモナ」

　と、リィンが来て、

リィン　「俺のせいで、変なことに付き合わせてしまった……。今日は本当にすまなかった、アリサ！」

　潔く頭を下げるリィン。

アリサ　「！」

　アリサ、そんなリィンの姿に、ハッとなって、

アリサ　「ま、まあ、これに懲りたら、こんな所には寄らずに、マクモに来ることね！　ちょっとくらいは、サービスするわよ！」

　少し赤面しつつ言うアリサで――。

〈つづく〉

♔ 第6話（最終回）「アリサとリィン、二人の出会い」

♔ 登場キャラクター

アリサ・ラインフォルト（まじかる☆アリサ）
ラウラ・S・アルゼイド（まじかる☆ラウラ）
エマ・ミルスティン（まじかる☆エマ）
モナくん

○

マキアス・レーグニッツ
エリオット・クレイグ
ガイウス・ウォーゼル
トワ・ハーシェル
クロウ・アームブラスト
トヴァル・ランドナー

○

リィン・シュバルツァー（魔界皇子リィン）
ユーシス・アルバレア（魔界貴族ユーシス）
ミリアム・オライオン
怪物
《C》

□ 高速道路を走るバス――

緑の木々が生い茂る山あいの高速道を、バスが走って行く。

× × ×

その車内――。

アリサ、エマ、ラウラが席に座っていて、担任のトヴァル先生が、バスの前方でマイクを持っている。

トヴァル「お前たち。修学旅行とは言っても、ハメは外しすぎないようにな！」

生徒達「はーい！」

トヴァル「いい返事だ。ホテルに到着するまで、楽しみにしてろよ！」

と、盛り上がる生徒たちの中で――。

アリサ「……」

窓の外をぼんやり見ているアリサ。

エマ「どうしたんですか、アリサさん？」

アリサ「え……!?」

ラウラ「先程から、窓の外ばかり気にしているようだが……？」

モナ君がアリサの足元の鞄から顔を出す。

モナ「車酔いでもしたモナ？」

その角度が、ちょうどパンツを覗けるアングルになっていて、

アリサ「ちょっ！　見ないでよっ！」

モナ「モガッ！」

アリサに踏み潰されるモナくん。

アリサ「……実はね。今夜泊まるホテルって、ずっと行きたいと思ってた、温泉街の近くなのよ」

ラウラ「そなたがアルバイトで、お金を貯めて行こうとしていた場所だったか？」

アリサ「ええ、そうよ」

エマ「ホテルに着いたら、夜まで自由時間ですね。その間に行ってみるのはどうでしょうか？」

アリサ、スマホの地図を見ながら、

アリサ「ううん。近くとは言っても、歩いて気軽に行けそうな距離じゃないから。残念だなって」

と、エマが微笑んで、

エマ「大丈夫ですよ、アリサさん。私たち、魔法少女じゃないですか」

アリサ「え？」

ラウラ「うん。そうであったな。魔法の力で山にトンネルを掘って……！」

エマ「(汗ジト)い、いえ、ホウキで飛べば」

アリサ「そっか！　その手があったわね！　ホウキでひとっ飛び……！」

笑顔になるアリサ。

× × ×

リィンは、離れた席で物憂げな顔で窓の外を一人見ていて。

リィン「……」

その視線の先には、火山が聳えていた。

□ オープニング

□ 走るバスの車内

トヴァル「ゴーファイっ‼」

カラオケで某曲を熱唱するトヴァルがいて、黄色い声援を送り盛り上がる女子達。

そんな中で――。

リィンと、クロウ、マキアス、エリオットが固まって座っている。

エリオット「女子たち、盛り上がってるねえ」

リィン「ああ、楽しそうだな」

マキアス「まったく。学を修めると書いて修学旅行だぞ。遊び半分で来られては困るっ！」

と、エリオットがゴソゴソとマキアスの鞄を開いて、

エリオット「へえ……。コレでもそんなこと言えるのかな？」

出て来たのはアイドルのライブDVDの山で、

マキアス「よ、夜に勉強会を開こうと思ってな！　オトナの楽しみだ、構わんだろ！」

エリオット「(苦笑)オトナねえ……」

クロウがニヤッと笑って、懐に手を入れ、

クロウ「おっと。オトナっていうなら、コイツだろ」

出したのはブレードのカード。

クロウ「ブレードで、土産代を賭けて徹夜勝負としゃれ込もうじゃねえか」

リィン「うっ……！　ブレードには、嫌な思い出が……」

クロウ「ヘヘッ。修学旅行の夜の楽しみ方ってのを、教えてやるぜ。経験二回目のこの俺がなっ」

ドヤ顔で言った途端、

トワ「ダメだよ、クロウくんっ。ブレードは没収！」

クロウのブレードカードを取り上げるトワ。

クロウ「ちょっ！　つーか、何で三年のトワまでついて来てんだよ！」

トワ「生徒会長として、クロウくんの監視のためにね」

胸を張るトワ。

リィン「監視……とは？」

トワ「去年の修学旅行、ブレードでクロウくんがクラス全員のお土産代を巻き上げちゃった前科があってね」

マキアス　「な、何ですって……！」
エリオット　「恐るべし、ギャンブル狂だね……」
リィン　「ハハッ……」
トワ　「というわけで、修学旅行中はブレード禁止だからねっ！」
クロウ　「ちぇっ、つまんねーなあ」

□ 高速道路を――

馬のいななきと共に、

ユーシス　「はあっ！」

愛馬シュトラールで駆けるユーシス。
アガートラムに乗って、空から追いかけるミリアムが、

ミリアム　「待ってってば、ユーシス～！」
ユーシス　「フン……。この俺に黙って旅に出るなど、いい度胸ではないか……必ずや追いついてみせる……」
ミリアム　「オウジに置いてかれたのが、そんなにショックなんだ～？」
ユーシス　「阿呆が。そんな低レベルな話をしているのではない」

ギッと真顔になって、

ユーシス　「あいつはこの一月ほど、魔界皇子としての任務を全く果たさず、腑抜けたように家に閉じこもってばかりだ……。この辺りで、活を入れてやらないとな」
ミリアム　「ふ～ん。なら、ちょうどいいかもね」
ユーシス　「何がだ？」
ミリアム　「ほら、あの山」

行く手に見える火山を指さすミリアム。

ミリアム　「オウジの行き先って、あの魔界の出入口の近くじゃないの？」
ユーシス　「あれは……確かにそうだな」

火山を見やるユーシス。

ユーシス　「あいつが何かを思い出す切っ掛けになるやもしれんな……。急ぐぞっ、シュトラール！」

シュトラール、いななき、猛スピードで駆ける。

ミリアム　「わっ！　ちょっと――！」
ユーシス　「(M) 待っていろ。この俺が、貴様の記憶の全てを必ず取り戻させてやる……！」

ユーシス、驚いて避けた車を、猛スピードで追い抜いていき。

□ サブタイトル

□ 高原のホテル・全景

□ 同・一室

エマ、アリサ、ラウラが窓から顔を出し、ベランダに出て来て、

エマ　「どうでしょうか？」
ラウラ　「大丈夫だ。誰も下にはいない」
アリサ　「よしっ……！」

ホウキを手にするアリサ。

モナ　「見つからないように、出るモナ……」

その時である！

声　「お邪魔しま～すっ！」

驚くアリサたち。

アリサ　「わっ⁉」
ラウラ　「そ、その、これは何でも！」
エマ　「ベランダの掃除をしようと……！」

慌ててホウキでベランダを掃いたりするが、入ってきたのはトワで、

トワ　「あれ？　どこか行くつもりなの？」
アリサ　「トワ会長……！」

×　×　×

ホウキに乗ってベランダ飛び出していくアリサ、ラウラ、エマ（横乗り）。

アリサ　「行くわよ！　ユミル温泉！」

モナくんが、ホウキの後ろにくくりつけられていて、

モナ　「モナ！　モナっ！　落ちるモナ！　死ぬモナアア！」

トワもアリサの背中にしがみついていて、

トワ　「わああ！　凄い！　楽しいっ！」

空を飛んでいくアリサたち一同。

□ 同・ホテル内のロビー

リィン　「……はぁ」

缶ジュースを飲みながら、リィンが物憂げに座っている。

リィン　「(M) ユーシスのやつ、今頃怒ってるだろうな……」

×　×　×

回想――リィンに怒るユーシス。

ユーシス　「貴様！　なぜ皇子としての務めを果たそうとせぬ……！」

×　×　×

リィン　「(M) あいつはああ言うが……俺はやはり、いやなんだ……」

黒い革手袋で包んだ右手を、ジッと見やるリィン。
そんなリィンの背を、ポンと叩く手。

ガイウス　「リィン」
リィン　「ガイウス？　な、何だ……」

サッと右手を隠すリィン。

ガイウス　「おまえの纏う風の音が、俺には泣いているように聞こえてな」
リィン　「風……？」
ガイウス　「ああ。そんな時は、爽やかな風を浴びに出るに限る。一緒に釣りに行かないか？」



そう言い、釣り竿を差し出した。

リィン「釣り竿なんて、どこで……」

と、マキアス、エリオット、クロウが釣り竿を手にやってきて、

エリオット「レンタルだよ」

マキアス「こういうのも、悪くはないな」

クロウ「ま、ブレードもできねえしなぁ」

リィン「みんな……」

クロウたちを見やるリィン。

ガイウス「さあ」

リィン、頷き、釣り竿を受け取ると、

リィン「……ああ。折角の修学旅行だしな。」

笑顔で立ち上がるリィン。

□ユミル温泉・全景

□同・露天風呂

ザバッと湯舟から湯が溢れる音が響いて。

アリサ「はあああ～～……」

ラウラ「極楽、極楽……」

エマ「心が洗われるようですね」

トワ「うんうん、連れて来てくれてありがとっ」

アリサたち一同が、露天風呂の湯舟につかって寛いでいる。

モナ「モナは……モナは何も見えないモナアアア！」

アイマスクでガチガチに目を隠されたモナくんが、涙を流して湯舟に浮いている。

ラウラ「心配いらぬ。この私が手取り足取り、世話をしてあげるからな」

と言って、ギュッとモナを抱き寄せるラウラ。

ラウラ「ふ、ふふふふっ……」

口から涎が流れる。

モナ「モ、モガ……なんだか、息ができないようなモナっ……!?」

ラウラの胸の谷間に挟まれたモナが窒息しそうになる。

ラウラ「む！　これは失礼した」

慌ててモナを放すラウラ。

モナ「モ、モナ！　いや、全然問題ないモナ！　もう一度ギュッとモナ……！」

アリサ「このヘンタイ国王……」

モナ「そ、そ、そんなことないモナっ！」

アリサ、ラウラの胸を見て、

アリサ「それにしても、ラウラって、その。やっぱり私よりも……」

ラウラ「何のことだ？」

アリサ、さらにエマの胸も見て、

アリサ「エマも、うらやましいわね……」

エマ「（赤面し）ア、アリサさん。そんなことは

ありませんよ……アリサさんこそ」
　そんなやり取りを、
トワ　「ふふっ。いいねえ。修学旅行って感じで」
　と、笑顔で見ているトワ。
アリサ　「ふうっ」
　大きく伸びをするアリサ。
　その胸元で、赤い宝石をはめたペンダントが輝く。
アリサ　「久しぶりに来てみたけど、あの頃と全然変わってないわね」
トワ　「アリサちゃんの初恋の人、見つかるといいね～」
アリサ　「は、初恋だなんて、そんな！」
ラウラ　「ほう、それは初耳だな」
エマ　「どういう方なんです？」
　アリサに注目する一同。
アリサ　「……まだ小さかった頃の話よ」

□ アリサの回想――

　山道で迷い、うずくまって泣いている幼いアリサ。
アリサの声　「この温泉に家族で旅行に来たんだけど、みんなとはぐれて、山の中で迷子になっちゃって……」
　そこに手を差し伸べる幼い男の子の姿。
　（顔はまだ見せず）
アリサの声　「その時に、私を助けてくれて、麓の旅館まで私をおぶって連れて行ってくれた優しい男の子がいたの……」
　幼いアリサ、髪飾りを取って、お礼に男の子に手渡す。
　すると、男の子の口元が微笑んで、
　赤い宝石を代わりに渡してくれた。
アリサの声　「お礼に渡した髪飾りのお返しに、その子がくれたのが……」

□ 回想戻って――

アリサ　「この宝石なのよ」
　胸のペンダントの宝石を、一同に見せるアリサ。
トワ　「不思議な話だよねぇ」
ラウラ　「ふむ。皇子の印などと呼ばれているが、いったいなぜ、その少年が……」
エマ　「もしかしたら、この土地に、魔界皇子さんの秘密があるのかもしれませんね」
アリサ　「どうなのかしら……。まさか、あの子が魔界皇子だったなんてことは……。ないと思いたいけど……」
　宝石を見やるアリサ。

□ 涼やかに流れる山の渓流で――

　リィンとガイウス、クロウ、エリオット、マキアスが釣りを楽しんでいる。
マキアス　「ヒット！」

　パッと竿を上げるが、
ガイウス　「早すぎるな。逃げられた」
　ルアーの先には何も付いていなかった。
マキアス　「くそおおっ！　今度こそっ！」
　再びルアーを投げるマキアス。
エリオット　「ふわあああ。頑張ってねえ」
　あくびをしていたエリオットの竿が、グッと引かれていて、
マキアス　「エリオット！　君の方こそ、引きが来てるぞ！」
エリオット　「え？」
　スッと引いてみると、見事なイワナがかかっていた。
クロウ　「へえっ、やるじゃねえか！」
　リィンは竿を垂らして、岩の上に静かに座っている。
リィン　「……」
　その横にガイウスが来て、
ガイウス　「調子はどうだ、リィン？」
リィン　「なんだかいいな……。このところずっと、心が晴れる日がなくて。久しぶりに、自分の時間を過ごせている気分だ」
ガイウス　「それはよかった」
　微笑むと、ルアーを投げるガイウス。
ガイウス　「どんな悩みがあっても、この大自然の中では忘れることができる。素の自分に戻ることが出来る。それが、自然のいいところだ」
リィン　「ああ……」
　ふと考え込むリィン。
リィン　「（Ｍ）素の自分……か」
　×　×　×
　フラッシュバックで――
　魔界皇子の姿で暴れる様子が蘇る。
　×　×　×
リィン　「……く」
　頭を押さえるリィンに、
ガイウス　「どうした？」
リィン　「いや、何でもない。ちょっと向こうの方に行ってくる」
　立ち上がるリィン。

□ 渓流の別の場所――

　――を一人で歩くリィン。
　そばには滝の音が響いている。
リィン　「（Ｍ）あれが、俺の本当の姿……。俺はあんな姿になって、何度も……」
　×　×　×
　回想――魔界皇子に変身するリィン。
　そして、まじかる☆アリサと戦う皇子。
リィン　「（Ｍ）だがあいつとはもう……戦いたくは

ない……」

× × ×

リィン「（M）この一ヶ月は、変身せずに耐えることができている。このまま収まって……普通の人間として……。リィン・シュバルツァーとして過ごすことが出来たら……」

× × ×

回想で——父のテオと、母、そして、エリゼに囲まれて暮らすリィンの姿。

リィン「（M）父さん、母さん、そしてエリゼと……」

× × ×

リィン、湯煙がたなびく温泉街の方を見やり、

リィン「育ってきたあの町で、今まで通りに、過ごすことができたら……」

その時——。

グラッとリィンの足元が揺らいで、

リィン「⁉」

岩場が崩れて、川に投げ出されるリィン。

リィン「うわっ……！」

そのまま水に飲まれて急流に流される。

リィン「くっ……ぐうぅっ！」

行く手には滝があって——。

リィン「う、うわああああああああっ！」

滝から落ちていくリィン！

その瞬間——脳裏に蘇る記憶。

□　リィンの回想——

——火山の火口付近に倒れている幼いリィン。

開かれたその目が、魔界皇子のように赤く光る。

——赤と黒が合わさった宝石を手に、山道を下っていくが。

——足を踏み外して断崖から落下する。

——そして、崖下で倒れていた幼いリィンを助け起こしたのが、テオだった。

——幼いリィンの手元では、赤と黒の宝石が真っ二つに割れていた。

意識が戻った幼いリィンの目は、赤い光を失っていて。

□　滝から落ちる中で——

カッと目を見開くリィン。

リィン「（M）……そうか……」

その目は赤く輝いていて、

リィン「（M）やはり……俺は、この世界に魔王から遣わされたのだ……！」

リィンの全身が黒いオーラに覆われた。

× × ×

ガイウス、マキアス、クロウらが、リィンを探しに滝の上に現れる。

マキアス「おおい！」

川縁に落ちた、リィンの手袋を発見するガイウス。

ガイウス「これは⁉」

エリオット「リィン……！」

その時、ブワッと真っ黒なオーラに包まれた魔界皇子が一同の眼前に出現。

魔界皇子「我こそは！　魔界皇子であるっ！」

右手から黒いオーラを放つと、ガイウスの釣り竿が一瞬で怪物に変化した！

怪物「ヒイイイイット！」

ガイウス「なっ……！」

恐怖におののくガイウスたち。

□　ユミル温泉の露天風呂

ザバッと湯桶で体を流すアリサ。

モナくんはスポンジのように石鹸だらけになって、ラウラに手でもみ洗いされている。

モナ「ああ、そこ！　そこはだめモナっ！　いや、もっとモナっ！」

アリサ「ほんとにもう……こいつは」

エマ「綺麗になってきましたね」

ラウラ「うん。ぬいぐるみの洗い方を練習してきたからな。こうして手でよく揉んだあとは、ギュッと固く絞って、洗濯ばさみで物干しに止めれば完璧だ！」

モナ「モナ⁉　モナはぬいぐるみじゃないモナアアア！」

と、壁向こうの男湯の方から、

声「静かにしろ、阿呆が」

声が聞こえてくる。

トワ「あ、ごめんなさいっ」

アリサ、首を傾げて、

アリサ「ん？　この声……どこかで聞いたような」

× × ×

男湯では——。

なんと、タオルを頭に乗せたユーシスが一人、湯舟で寛いでいた。

ユーシス「ふう。人間界の温泉とやらも、捨てた物ではないな」

ブルルといなないて答えるシュトラール。

壁の向こうからミリアムが、シュトラールの首にしがみついて、顔を出していて、

ミリアム　「ユーシス〜。こんなとこで遊んでていいの〜？」

ユーシス　「ふん。随分走ったからな。疲労回復だ。事務所の必要経費で落とすから問題ない」

×　×　×

と、そこに——。

ズズズズン！　と大きな地鳴りが響く。

アリサ　「……!?」

驚くアリサたち。

マキアスたちの声　「た、助けてくれええっ！」

ラウラ　「む！　何ごとだ!?」

×　×　×

ユーシス　「……！」

立ち上がるユーシス。

×　×　×

魔界皇子の声　「感じるぞ……」

ズンズンと響いてくる大きな足音。

いきなり、露天風呂の壁を突き破って、

怪物　「ヒイーーーット！」

飛び出して来る釣り竿の怪物。

アリサ　「な、なっ!?」

魔界皇子　「見つけたぞ……！　皇子の印の輝きを!!」

怪物の影から、現れる魔界皇子！

温泉内で全裸のアリサを、思いっきり凝視した。

アリサ　「きゃ、きゃあああああっ！」

あまりのことに、絶叫するアリサで——。

〈中CM〉



□前シーンより――

アリサ　「きゃあああああっ！」
絶叫するアリサ。

ラウラ　「貴様！　乙女の風呂場を覗き見るとは、何ということをっ！」
バッと立ち上がるラウラ。

モナ　「立ち上がっちゃだめモナ～～っ！」
目隠し状態のモナくんがピョンピョンとびはねて慌てて隠す。

エマ　「どうして、魔界皇子さんが……!?」

トワ　「こんなところにまで……!?」
タオルで体を隠しながら言うエマとトワ。

魔界皇子　「ふわはははっ！　皇子の印あるところに魔界皇子ありっ！」
そこに、カポンッと風呂桶が投げつけられて、

魔界皇子　「ぐわっ！」
頭に喰らう皇子。

アリサ　「いい加減になさいっ！　不埒な真似は、許さないわよっ！」
アリサ、タオルで体を隠しつつARCUSを手にしていて、

アリサ　「トワ会長は逃げて下さいっ！」

トワ　「う、うんっ！」
慌てて出て行くトワ。

アリサ　「みんな！　変身よ！」

ラウラ　「ああっ！」

エマ　「はいっ！」
タオルを纏ったまま、ARCUSを掲げるアリサ、ラウラ、エマ。

――変身BANK。
三人、ARCUSの光に包まれ、空中に飛び出し、変身を始める。
目を閉じ、ARCUSと融合した宝石を胸に当て、神々しい光に包まれるアリサ。

まじかる☆アリサ　「あなたに届け！　愛と希望と魔法の戦士！」
ARCUSと融合した竹刀を持ち、かっこよくポーズを決めて、光に包まれるラウラ。

まじかる☆ラウラ　「そなたに届け！　力と勇気と魔法の戦士！」
目を閉じ、ARCUSと融合した杖を手にして、神々しい光に包まれるエマ。

まじかる☆エマ　「みんなに届いて！　歌と光と魔法の戦士！」
アリサがピンク色の服を着た、魔法少女まじかる☆アリサに変身！

まじかる☆アリサ　「魔法少女！　まじかる☆アリサ！」
ラウラが青色の服を着た、大剣を手にした魔法少女まじかる☆ラウラに変身！

まじかる☆ラウ　「魔法少女！　まじかる☆ラウラ!!」
エマがワインレッドの服を着た、魔法少女まじかる☆エマに変身！

まじかる☆エマ　「魔法少女まじかる☆エマ！」
三人、スタッと着地し、かっこよく決めポーズした。
――BANKここまで。
その変身シーンを見ていた皇子。

魔界皇子　「（M）……やはり、あいつが……」
だが、すぐに身体からブワッと黒いオーラが立ち昇り、

魔界皇子　「うおおおおおおっ！」
右拳をグッと天に掲げる皇子。
すると、空に黒雲が現れ、辺りが一斉に闇に包まれる。

まじかる☆アリサ　「な、何をする気!?」

×　×　×

アリサたちのいる温泉旅館の前に逃げてきたマキアス、エリオット、ガイウスも驚き空を見上げる。

×　×　×

カッと光った空から落雷。
稲妻が皇子の右手に吸い込まれると――。

魔界皇子　「漆黒の闇に包まれし魔界より、今こそ顕現せよ！　我が魔剣『緋皇』っ!!」
赤黒く輝く日本刀のような魔剣『緋皇』が、皇子の右手に現れた。

まじかる☆ラウラ　「ぬうっ！　魔剣とは面白い……。いざ勝負っ！」
ラウラ、大剣を振りかざして突進。

モナ　「ラウラ！　待つモナ！」

まじかる☆ラウラ　「はああああああっ！」
突進するラウラの前に現れたのは――。

ユーシス　「おおおおおっ！」
シュトラールに跨がった浴衣姿のユーシス。
剣を振るってラウラの斬撃を受け止めた。

ユーシス　「貴様の相手は、この俺だ！」

まじかる☆ラウラ　「ぬううっ！」
さらに、アガートラムに乗ったミリアムも現れる。

ミリアム　「へへッ！　モナ国王も捕まえちゃうよー！」

モナ　「モナっ!?」
襲いかかってくるが、

まじかる☆エマ　「やああっ！」

杖を振って、アガートラムに魔法の光を放つエマ。

まじかる☆エマ　「私が相手です！」

魔界皇子、対峙するユーシスとラウラ、ミリアムとエマを横目に見つつ、

魔界皇子　「ククク。どうやら、役者が揃ったようだな……」

まじかる☆アリサ　「く……」

魔界皇子　「我が宿敵、まじかる☆アリサよ！　今こそ、決着を付ける時！」

怪物をけしかけ、自らも魔剣を構えてアリサに向かってくる。

まじかる☆アリサ　「そうね！　いい加減に、決着をつけてやろうじゃないの！　はあああっ！」

ジャンプして、怪物にキックを喰らわせる。

怪物　「ヒーーット!?」

□温泉旅館の前では——

トワ　「みんな！　なんでこんな所に!?」

浴衣姿で出て来たトワが、マキアス、エリオット、ガイウスに落ち合った。

マキアス　「会長!?」

エリオット　「あの怪物に襲われて……！」

トワ　「とにかく、ここから避難だよ！」

ガイウス　「しかし……！　リィンの姿が見えないのだ！」

マキアス　「クロウもいないぞ！」

トワ　「ええっ!?」

×　×　×

離れた森の中——。

樹の上に立っていたのは《C》——。

《C》　「……」

まじかる☆アリサたちの戦況を見やる。

□露天風呂付近——

まじかる☆アリサ　「やあああああっ！」

皇子が振り下ろしてきた魔剣の柄を受け止め、激しく押し合うアリサ。

魔界皇子　「ぬううっ！」

近付くアリサと皇子の顔。

まじかる☆アリサ　「くっ……！」

アリサ、ゴーグルの下に僅かに見える皇子の目を見る。

魔界皇子　「……ちっ！」

魔剣を引き、間合いを取る皇子。

まじかる☆ラウラ　「おおおおおっ！」

大剣を横薙ぎに振ったラウラの一撃が、ユーシスの剣を振り払う。

ユーシス　「ぬっ！」

まじかる☆ラウラ　「その姿では、馬上での踏ん張りがきくまい！」

浴衣姿で裸足のユーシス、シュトラールのあぶみを上手く踏みしめられずにいる。

ユーシス　「おのれっ！」

地面に落ちた剣の方へと、シュトラールと共に後ずさるユーシス。

まじかる☆エマ　「モナークモナーク！　樹よ！　あの子を捕らえて！」

杖から魔法の光を放ったエマ。

途端に大木の枝がガサガサと蠢いて、

ミリアム　「わ、わわっ!?　うそっ!?」

ミリアムとアガートラムを絡め取ってしまい、

ミリアム　「わあああああ～～っ！」

地面に落ちるミリアム。

怪物　「ヒイイイット！」

怪物、ラウラとエマの前にやってくるが、

まじかる☆ラウラ　「エマ！　行くぞ！」

まじかる☆エマ　「ええ！」

技の構えを取る二人！

まじかる☆ラウラ　「アルゼイドが秘剣、篤と見よ！　奥義・洸刃乱舞！　はあああっ！」

猛烈な剣撃を喰らわせるラウラ。

怪物　「ヒイイッ!?」

怪物の釣り糸が切り落とされる。

さらに、エマが杖を振り上げて、

まじかる☆エマ　「そびえ立て、巨いなる塔！」

怪物を取り囲むように現れる四本の塔。

まじかる☆エマ　「ロードアルベリオン！」

その中心部から魔法の光が飛び出して、怪物を包み込む。

怪物　「ヒイイイイット！」

まじかる☆エマ　「静かに眠って下さい」

浄化されて釣り竿に戻る怪物。

魔界皇子　「ぬううっ！」

その様子を見やる皇子。

魔界皇子　「我一人になろうとも！　引きはせぬっ！」

魔剣を振りかざしてアリサに迫る！　だが、アリサ、剣撃をかわして高々とジャンプ。

魔界皇子　「なにっ!?」

見上げると、空中でたなびくアリサの金髪。

まじかる☆アリサ　「はあああああっ！」

アリサ、鮮やかな飛び蹴りを放つ。その足から魔法の光が迸り、

魔界皇子　「ぐおおおおっ……！」

なんとか両腕でガードする皇子だったが、その勢いに負けて吹っ飛ばさ

れ、露天風呂の岩に叩きつけられた！

アリサの隣にやってきたモナくんが、

モナ　「今だモナ！」

まじかる☆アリサ　「現れなさい！　愛の弓、トゥインクル・スター！」

掌に光が集まり、その手に出現する弓、トゥインクル・スター。

まじかる☆アリサ　「——ついに追い詰めたわよ、魔界皇子！」

手にした愛弓、トゥインクル・スターを、片膝を突いた皇子に向けて構える。

魔界皇子　「フッ、さすがだな……。我が宿敵、まじかる☆アリサ！」

皇子、魔剣を地面に突き立て、立ち上がり、宙に浮かぶと、余裕の表情でアリサを見下ろす。

と、目元のゴーグルにピシッと亀裂が走り、僅かにその瞳が露わになる。

まじかる☆アリサ　「！　……！」

一瞬、弓を引くアリサの手が止まる。

まじかる☆アリサ　「（M）……これってもしかして……！」

フラッシュ——#1で夢を見てベッドから落ちるアリサ。

まじかる☆アリサ　「（M）あの時の、夢と同じ⁉」

魔界皇子を見やるアリサ。

フラッシュ——夢の中で。皇子のゴーグルが割れるシーンが蘇る。

モナ　「アリサ、どうしたモナ⁉　今がチャンスモナ！」

アリサ、ハッとなって、

まじかる☆アリサ　「……え、ええ、分かってるわ！」

弓を引きしぼり、狙いを定め、愛の力を一点に集中させるアリサ。

まじかる☆アリサ　「はあああああっ！」

皇子は両腕を広げて身構え、

魔界皇子　「さあ、来い！　今宵訪れた常闇の舞台の幕を引くために！　俺の右腕に潜む『魔』——見事に打ち破ってみせるがいい！」

右手に嵌まった黒い宝石から、右腕全体にオーラが吹き出し、魔剣を包む。

アリサ、キッと皇子を見やると、

まじかる☆アリサ　「あなたにお届け！　愛と希望の流れ星！」

グッと引き絞った弦を解き放ち、

まじかる☆アリサ　「まじかる☆アリサ！　ラブ・シューティングスター‼」

愛の力を込めた虹色の矢を撃った。

皇子、右手に収束させた黒いオーラを纏った魔剣で、矢を受け止めるが、

魔界皇子　「ぐ……！　ぐおわあああああっ‼」

耐えきれず、ハート型の光に包まれて大爆発！

まじかる☆アリサ　「……！」

モナ　「やったモナ⁉」

まじかる☆ラウラ　「おお！」

まじかる☆エマ　「！」

だが——

魔界皇子の声　「……フッ」

爆煙が晴れると、傷つきながらも宙に浮く皇子の姿が露わになる。

魔界皇子　「フハハハハっ！　足りぬ、足りぬわ！　その程度か、まじかる☆アリサよ‼」

まじかる☆アリサ　「（目を瞠り）効いてない……！」

その時、傷ついた皇子のゴーグルにさらなる亀裂が走る。

皇子の目元を見やるアリサ。

魔界皇子　「……ふ。このような偽りの仮面など、もはやいらぬわっ！」

ひび割れたゴーグルを投げ捨てる皇子。

地面に叩きつけられ、ガシャンと割れてバラバラになるゴーグル。

漆黒の夜空を背景に——ついに露わになるその素顔。

まじかる☆アリサ　「うそ……⁉」

まじかる☆ラウラ　「なっ⁉」

まじかる☆エマ　「ああっ……！」

モナ　「モナっ⁉」

驚くアリサ、ラウラ、エマ、モナくんの顔、顔、顔！

風にたなびく皇子の髪。

僅かに微笑むその口元。

そして、見開かれた赤い瞳。

まじかる☆アリサ　「あ、貴方は……⁉」

魔界皇子　「ふわははは！　そうだ！　我こそは魔界皇子——！　魔界皇子リィン‼」

その素顔を晒し、高笑いする皇子。

モナ　「ど、どういうことモナ⁉」

まじかる☆ラウラ　「馬鹿な……！」

まじかる☆エマ　「リィンさんが、魔界皇子⁉」

まじかる☆アリサ　「今までずっと、クラスメートと戦っていただなんて……。嘘だと言ってよ、リィンっ‼」

悲痛な叫びを上げるアリサ。

ユーシス　「阿呆が！」

剣を携えたユーシスが戻って来て。

ユーシス　「こいつは生まれたその日より、魔界の王の息子として、この世界を征服することを運命づけられた男！」

まじかる☆アリサ　「そんな……⁉」

ユーシス　「さあ、共に征くぞ！　リィン！」

魔界皇子　「ああ！　我が友、魔界貴族よ！」

ミリアム　「へへっ！　ボクとガーちゃんも一緒だよ！」

三人、一斉にアリサ達に襲いかかって来た時である！

――突如連続して響く銃声！

ユーシス　「ぐうっ⁉」

ミリアム　「わあっ⁉」

銃弾をその剣に受け破壊されるユーシス。

消えるアガートラム。

まじかる☆ラウラ　「銃⁉」

まじかる☆アリサ　「これって、あの時の⁉」

ザンッと、一同の前に踏み出される足。

謎の仮面の男――《C》である。

《C》　「……」

銃を構えてユーシスに狙いを定める《C》。

ユーシス、片腕を押さえて苦しそうに、

ユーシス　「き、貴様は……」

ミリアム　「ガーちゃんを撃ったの、キミだったんだね！」

アリサたち、《C》を見やり、

まじかる☆アリサ　「貴方、何者なの⁉」

《C》　「我が名は《C》。魔界解放戦線がリーダーである」

マスクを通したくぐもった声で言う《C》。

魔界皇子　「魔界解放戦線だと⁉」

《C》、皇子に銃を向けると、

《C》　「いかにも」

まじかる☆エマ　「何度も私たちを助けたのは、いったいなぜです……⁉」

《C》　「魔界皇子の動向を探り、その正体を突き止め、暗殺せんがため！」

まじかる☆アリサ　「暗殺⁉」

引き金に指をかける《C》。

《C》　「消えるがいい。憎き魔王の息子よ！」

銃声が鳴り響いたその瞬間！

まじかる☆アリサ　「だめえええっ！」

咄嗟に皇子に飛びかかり、庇うアリサ――！

魔界皇子　「なっ……！」

アリサに押し倒された形になった皇子。

銃弾は皇子の体をかすめていて、

魔界皇子　「なぜ、この俺を庇う⁉」

まじかる☆アリサ　「当たり前でしょ……リィン。貴方は私の……大事なクラスメートだもの……！」

そう言い、微笑を浮かべるアリサ。

魔界皇子　「――っ！」

ドクンと高鳴る皇子の鼓動。

アリサに触れたリィンの右手と、アリサの胸元のＡＲＣＵＳと融合したペンダントが近付き。

カッと二人の宝石が光り輝く――。

《C》　「ぬっ⁉」

ラウラたち　「⁉」

その光に目を覆う一同。

×　×　×

リィンとアリサの回想――

山中で男の子に出会う幼いアリサ。

その前にいたのは、幼いリィンであった。

幼いリィン、微笑むと、幼いアリサに赤い宝石を手渡す。

幼いリィンの手には、残された黒い宝石。

×　×　×

光の中で話す変身前のアリサとリィン。

アリサ　「……やっと会えたわ。あの日、私を助けてくれたのは、リィンだったのね……」

リィン　「……アリサ！」

×　×　×

光が消えると、アリサは立ち上がり、

まじかる☆アリサ　「願いが叶ったのに……これで終わりなんて、絶対にいやよ！」

《C》に向けて見得を切る。

まじかる☆ラウラ　「アリサ……！」

まじかる☆エマ　「私たちも加勢を！」

《C》、銃を構えたまま間合いを取り、

《C》　「愚かな！」

ズガガガと銃を連射。

ラウラ、エマが次々に足元に受けて、思わず後ずさりする。

まじかる☆アリサ　「くううっ！」

激しい銃撃を、アリサ、なんとか避けながら《C》に向かっていくが、

《C》　「貴様も亡き者としてくれる！」

ピタッと、アリサの胸元に狙いを定める。

《C》　「皇子の印の片割れと……共にな！」

まじかる☆アリサ　「⁉」

《C》が引き金を引いた時である。

魔界皇子　「うおおおおおっ！」

アリサの前に立ちはだかり、銃弾を受ける皇子。

まじかる☆アリサ　「え……！」

ユーシス　「リィン……！」

皇子の胸元から滴る血。

魔界皇子　「ハァハァハァ……」

ザッと足を踏み出す皇子。



魔界皇子　「すまない……アリサ」

まじかる☆アリサ　「！」

《C》に向けて魔剣を構え、歩み寄る魔界皇子。

魔界皇子　「俺とそいつとの戦いに……お前を。クラスメートを巻き込むわけにはいかない！」

まじかる☆アリサ　「リィン……！」

《C》　「ぬうっ！」

銃を連射する《C》だが、ガンガンと、剣撃で弾くリィン。

魔界皇子　「おおおおおおっ！」

魔剣を振り上げ、突進していく皇子。

魔界皇子　「おぼえておけ！　まじかる☆アリサよ！　これが魔界皇子の……！　お前達を苦しめ、罪を犯したこの俺の！　せめてもの償いだあああっ‼」

銃撃を受けながらも、《C》に迫り、魔剣を一閃。

魔界皇子　「八葉一刀流、弧影斬‼」

《C》の銃が真っ二つに斬り裂かれた。

《C》　「……」

魔界皇子　「ハァハァハァ……」

力尽き、その場に倒れる皇子。

まじかる☆アリサ　「そんな……リィン！」

呆然と立ち尽くすアリサ。

《C》、とどめを刺そうと腰の剣の柄に手をかけるが。

まじかる☆ラウラ　「させるか！」

まじかる☆エマ　「もうやめて下さい！」

剣と杖を構える二人。

《C》　「……我が目的は果たした。さらばだ！」

姿を消す《C》で――。

□旅館の裏庭――

元の姿に戻ったアリサが、傷つき、血を流すリィンを抱きかかえている。

アリサ　「リィン！　起きて、リィン！」

エマ　「回復魔法も効きません！　このままでは……！」

リィン　「ぐっ……」

うっすらと目を開けるリィン。

リィン　「今まですまなかったな――」

そう言い、アリサの手を握ると、

リィン　「アリサ……。俺はお前を……」

何かを言いかけたその時――。

漆黒のオーラに包まれるリィン。

アリサ　「だめよ、リィン！　行かないで！　やっと、やっと会えたのに……！」

だが、リィンの身体は漆黒のオーラに包まれ、アリサの腕の中から、忽然と姿を消してしまった。

アリサ「いやああっ……‼」
　涙を流すアリサ。
　と、その背後にいたユーシスが、
ユーシス「……フン。あいつは魔王の力によって、魔界に連れ戻されただけだ」
アリサ「え……⁉」
ラウラ「リィンが、魔界に⁉」
　ユーシス、キッとアリサ達を睨んで、
ユーシス「貴様達にもう用はない……。皇子率いる魔王本軍に、いずれ征服される日まで、残り少ない時をせいぜい楽しむがいい！」
ミリアム「じゃ、まったねー！」
　そう言って、ミリアムと共に姿を消すユーシス。
　そこに、トワが、マキアスらと共に駆け寄ってきて、
トワ「みんな！　大丈夫……！」
エマ「……トワ会長」
　クロウも戻っていて、
クロウ「おいおい……」
マキアス「いったい何があったんだ⁉」
エリオット「リィンがまだ見つからないし……どうしちゃったの⁉」
ガイウス「手がかりは、この手袋だけか……」
　ガイウスが手にしていたのは、リィンが川で落とした革の黒手袋だ。
　アリサ、それを見て、キッと決意の顔になると――。
アリサ「……私、決めたわ……！」

□マクモナルド・全景
　テロップ――『数日後』

□同・店内
　フィーが店員のバイトをしており、自動扉が開く。
フィー「らっしゃい」
アリサ「フィー！　こないだの話！　あなたの誘いに乗るわ！」
　大きなリュックを背負ったアリサがやってくる。
フィー「一緒に……魔界を滅ぼす？」
アリサ「ええ。魔界に殴り込んで、魔界皇子を……ううん。リィンを、魔王から取り戻してみせるわ！」
ラウラ「勝手に行くな、アリサ！」
エマ「私たちもご一緒します！」
モナ「モナも一緒モナ～！」
　次々にやってくるラウラ達。
アリサ「みんな……」
　嬉しそうに微笑むアリサ。
　×　×　×
　点描で――。
　――魔王城のベッドでうなされるリィン。
リィン「アリ……サ……」
　それを見守るユーシス、ミリアム。
　×　×　×
　魔王城の空に雷鳴と共に稲妻が走り。
　×　×　×
　トワが見送る中、マクモナルドの前から出発していくアリサ達。
　クロウが物陰からその様子を見て、ニヤッと笑う。
アリサ「（M）待っててね、リィン！」
　アリサの片手には、リィンの黒手袋が嵌められていて――。

〈おわり〉

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!!　オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント!　※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.134プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）

2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から1つずつ）

3：アンケート①TVアニメ『閃の軌跡』の第一印象＆期待することは？
　アンケート②アニメで観てみたいファルコム作品は？

4：希望するプレゼント番号

5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：TVアニメ「閃の軌跡」最新情報
2：も～っと集まれ！ファルコム学園
3：英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～
4：創の軌跡　THE MISERABLE SINNERS
5：ファルコムニュース
6：暁の軌跡最新情報
7：魔法少女まじかる アリサ 決定稿

応募締め切り　4月25日（月）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を超えて保存することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.134

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小澗智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field y.co.jp/